

令和4年度学校自己評価システムシート (県立北本高等学校)

目指す学校像	生徒一人ひとりの個性を伸ばし、生きる力を地域社会とともに育む学校
--------	----------------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 基礎基本を重視し、確かな学力の育成及び体力の向上を図る。 個に応じた進路指導を充実させ、多様な進路希望の実現を図る。 自主自律の精神と規律を重んじる態度を育成し、豊かな心を育む教育活動を推進する。 地域連携事業を推進し、生徒の社会性及びコミュニケーション能力を育む。
------	--

達成度	A	ほぼ達成 (8割以上)
	B	概ね達成 (6割以上)
	C	変化の兆し (4割以上)
	D	不十分 (4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	5名
	事務局(教職員)	12名

※重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学校自己評価					学校関係者評価		
年度目標			年度評価(1月26日現在)			実施日	
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	
						次年度への課題と改善策	
1	本校生徒は、基礎学力の定着と向上が必要である。そのため、きめ細かい指導と分らないことを先生に聞くことができる学習環境づくりが重要である。また、観点別評価については、各教科及び校内で共通認識を図りながら進めていくことが不可欠である。	教員の授業力向上	<ol style="list-style-type: none"> 日々の授業において、きめ細かい指導を行うことで、生徒が学びやすい学習環境を整える。 ICT機器の整備と適切な運用を行い、授業における効果的な活用を推進する。 各教科において観点別評価を共通認識し、三者面談時に生徒、保護者へ説明し、円滑に実施する。 	<ol style="list-style-type: none"> 授業を理解している生徒が増加しているか。 授業における、ICT機器の整備と効果的な活用はなされたか。 職員会議等において、各教科の観点別評価を共通理解でき、課題等を共有できているか。 	授業の工夫等により、生徒にきめ細かい指導ができたため、授業がわかる生徒の割合が高い水準であった。ICT機器について、今後も積極的な活用を行いたい。 ①生徒アンケートで「授業がわかる」と回答した生徒の割合が83.3%(昨年83.4%)であり、昨年度同様であった。 ②ICT機器活用の環境を整備し、授業における教員の活用のほか、生徒においても調べ学習等の活用ができた。 ③観点別評価においては、教科を超えた情報交換を積極的にに行い、全教員で共有することができた。	B	全学年において、生徒がわかる授業や生徒のために、きめ細かい指導を継続していく必要がある。また、来年度より1人1台端末の導入が開始されるため、ICTを活用した効果的な授業への工夫や改善が必須となる。そのためには、google classroomを導入し、ICT機器の積極的な活用につなげたい。
2	本校は、多様な進路希望の生徒がいるため、丁寧な個別指導が必要である。進路選択においては、生徒及び保護者との十分な情報提供と連携が必要不可欠である。また、全学年において進路に対する生徒の意識付けを強化することが進路実現には重要である。	多様な進路希望に応じた個別指導の充実	<ol style="list-style-type: none"> 進路通信を発行し、生徒、保護者に対して適切な情報提供を行う。また、進路資料室及び進路掲示板の積極的な活用を行うことで、情報共有を図る。 進路行事の見直しを行い、生徒が自己適正・職業観について、計画的に考える指導計画を推進する。 長期休業中に補習を実施し、個々の進路実現に向けた個別指導、面接指導を充実させる。 	<ol style="list-style-type: none"> 生徒、保護者に対し、適切な情報提供ができたか。進路資料室及び進路掲示板が積極的に活用できたか。 進路行事の見直しが行われ、段階的かつ計画的な指導は実施されたか。 生徒の実情に応じ、補習指導等が実施されたか。 	生徒の進路に対する意識を向上させることができ、個に応じた進路指導ができた。段階的な指導を継続していく。 ①今年度から、保護者向け進路説明会を5月に実施し、進路に関する情報を共有し、家庭へ協力と呼び掛けることができた。進路通信も定期的に発行した。 ②学年別の進路目標を作成し、学年の目標に基づき、段階的に進路活動を実施することができた。 ③生徒に対する年2回のアンケートから、進路意識や職業観などを把握することで、更に夏期講習を実施した。	A	進路決定者は、大学及び短大37名(昨年44名)、専門学校59名(昨年63名)、就職35名(昨年45名)である。生徒アンケートの「個に応じた進路指導が行われている」と回答した生徒の割合が91.2%(昨年91.7%)であり、今年度も高い水準であった。さらに、教員向けの進路指導研修会を実施することで段階的な進路指導を充実させる。
3	日常的に遅刻指導や整容指導等の生徒指導上の課題が多く、学校全体で取り組んでいく必要がある。生徒には、基本的生活習慣を身に付けさせ、規範意識を向上させる指導が必要不可欠である。また、生徒が部活動や行事等で主体的に活動できる場面を作ることが重要である。場合によって、個に応じた教育相談を実施していかなければならない。	規範意識の向上と主体性の育成	<ol style="list-style-type: none"> 遅刻指導、整容指導等を段階的かつ継続的に行う。さらに、関係機関や保護者と連携し、交通安全指導や挨拶指導等をより充実させる。 生徒が部活動や学校行事等に主体的に参加し、活躍できる場を充実させる。 	<ol style="list-style-type: none"> 遅刻指導、整容指導、交通安全指導、挨拶指導等を実施したか。指導件数は減少したか。 部活動や学校行事に対し、生徒は積極的に参加し、活躍することができたか。 	多くの場面で生徒が主体的に活動し、活躍した。 ①遅刻指導は、第2段階指導は1件(昨年7件)、第3段階指導は0件(昨年2件)と減少し、整容指導及び問題行動における指導対象の生徒数も減少している。(12月23日現在) ②約7割の生徒が部活動に加入し、運動部および文化部ともに活躍した。	A	問題行動における指導対象生徒が昨年より41%減少している。しかし、同じ生徒が繰り返し指導を受けている傾向があるため、保護者と連携を更に強化していくことが重要になる。また、自転車における交通事故が4件、登下校時の自転車に対する苦情が数件ある。引き続き、生徒へ交通安全についての意識付けを行う必要がある。コロナ禍において、精神的に不安定な生徒については、継続的にカウンセリング等の支援を継続していきたい。
		個に応じた支援の推進と組織的な情報共有	<ol style="list-style-type: none"> 教育相談委員の計画のもと、教育相談支援の機会を充実させる。また、学年や保護者との連携を深め、個に応じた支援をより一層深める。 生徒情報等について、学年等で共有するとともに、管理職へ報告、連絡、相談を適切に行い、組織的体制を充実させる。 	<ol style="list-style-type: none"> 巡回支援相談員やスクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等を活用し、個に応じた支援は適切に実施されたか。 管理職や学年等で情報共有し、組織的体制が確立できたか。 	年間を通じて、対象生徒に対して支援することができ、組織的に対応することができた。 ①巡回支援相談員は年6回、スクールカウンセラー要請は年8回、隔週で来校するスクールソーシャルワーカーを活用し、対象生徒に支援を継続的に行った。 ②学年で情報共有が必要な内容については、管理職と学年主任が中心となり、組織的に対応した。	A	
4	K I S E P (北本市小・中・高相互交流事業)は地域との重要な交流事業である。昨年は、コロナ禍のため中丸小学校での交流事業と中学校の出前授業のみであった。K I S E Pについては、北本市教育委員会や市内小中学校と連携を図り、コロナ禍でも可能な交流事業を計画・実施する必要がある。また、生徒募集については、本校HPやメディア等を活用し、レンタル制服導入や騎西特別支援学校北本分校の開校など北本高校の魅力を発信することで生徒募集を図ることが重要である。	地域交流の推進	<ol style="list-style-type: none"> 北本市教育委員会及び北本市内各小中学校との打ち合わせを行い、交流事業に向けての計画を立案・実施する。 北本市役所、鴻巣警察署等の地域機関との連携を積極的に図り、実施可能な交流事業を立案する。 	<ol style="list-style-type: none"> 北本市教育委員会及び小・中学校と連携し、K I S E Pの計画立案、活動実施ができたか。 地域機関と積極的に連携・情報共有を図り、交流事業に向けた計画が立案されたか。 	コロナ禍ではあったが、地域との連携が十分にできた。引き続き、地域との連携を強化していきたい。 ①11月9日に中丸小学校で、あいさつ運動とまなびあいを実施し、11月30日に北本西中学校で、書道(書き初め)と数学の出前授業を実施した。 ②九都県市合同防災訓練を始めとした、市役所や自治会、観光協会等と本校との連携に関わる実務者会議を開催した。	A	コロナ禍のため、参加できる地域事業等が、ほぼ固定してきている状況である。しかし、新たな依頼に対しては、コロナ禍での参加方法の工夫と教員の負担を考えながら、積極的に連携していきたい。分校との連携については、今年度の課題を整理するとともに解決に向けた方針については、分校連携委員会を中心に継続して行っていく必要がある。また、K I S E Pについても、分校と連携を図りながら、継続して実施していく。学校説明会や学校HPの工夫、地域事業への参加等により、本校の魅力を最大限に発信していくことは、今後の生徒募集へ繋がるため継続的にしていきたい。
		本校魅力の発信	<ol style="list-style-type: none"> 学校HP・学校案内の充実やメディア、学校説明会、中学校訪問等を活用して広報する。 今年度から、本校内分校の開校に伴い、分校とのより一層の連携強化を図り、学校全体で共生社会を理解するとともに、地域や近隣中学校に広報する。 	<ol style="list-style-type: none"> 本校の魅力について、中学生や保護者等に広報されたか。適切な情報発信はできたか。 分校との連携が強化され、共生社会の実現へ向けて、校内理解が深められたか。また、分校の開校について地域や近隣中学校に情報発信ができたか。 	中学生や外部の方々から本校の魅力を広報できた。来年度も、分校との連携を密に行っていく。 ①学校説明会で、部活動紹介やPTA会員及び在校生が話をすることにより、より本校の魅力を広報できた。 ②体育祭や文化祭等の学校行事や職員研修会において、分校と合同で開催することができた。また、K I S E Pのあいさつ運動や花壇作製では、本校生徒及び分校生徒が協力して実施することができた。	A	

学校関係者からの意見・要望・評価等

来年度から、1人1台端末が導入されることで、小中学校からのICT教育が継続され、高校でも授業の方法や進め方が変わってくるのではないかと。中学校では、ICT教育研究推進者の人数によって明らかに、学校による格差が生まれている。ICT推進プロジェクトチームのリーダーシップが必要である。また、google classroomやアプリをうまく活用すれば、学び直しや自習対応に期待できる。

多くの生徒が、進路決定していることは、とても素晴らしいことであり、段階的な進路指導の成果が表れたといえる。5月に3年生保護者向けに実施された進路説明会は、とても良い行事である。3年生だけでなく、各学年での保護者向け進路行事は、進路に関する詳細内容や最新の進路状況などを知るための、とても良い機会であるため、今後も継続して実施してほしい。また、保護者にとっては、このような進路行事は、重要であり、学校への信頼に繋がる。

問題行動や遅刻指導が減っているのは、大変良い方向に向かっている。今後も、指導を継続し、更なる減少に向けて尽力してほしい。教員が率先して、朝の鍵開け等を行うことにより、生徒が登校しやすい環境づくりを整えている。また、数年前までは、通学路を自転車で焦って登校している生徒が多かったが、最近ではそのような生徒がかなり少なくなった。その点からも、遅刻が減少していることと実感している。さらに、来校した際にしっかりと挨拶してくれ、生徒たちが楽しそうである。教職員の指導の努力の結果であり、このような成果は生徒募集でもアピールして欲しい。

コロナにより、北本市を代表する事業の1つである北本まつりはここ数年中止となっている。さらに、自治会の多くの事業も実施できていない現状がある。コロナが徐々に収まり、北本まつり等の大きな事業が実施できれば、町を活性化させるとともに、色々な方との交流の場が増えるため、今後も積極的な連携をお願いしたい。また、地域の犯罪についても、地域で未然に防ぐことが大切なので、今後、高校との協力体制を進めてほしい。分校開校1年目の学校運営が順調で良かった。両校の生徒の動線が一緒の昇降口の構造は珍しいが、生徒間の問題が起きていないことは素晴らしく、ノーマライゼーションの成果が表れている。更なる分校との連携、交流を期待している。